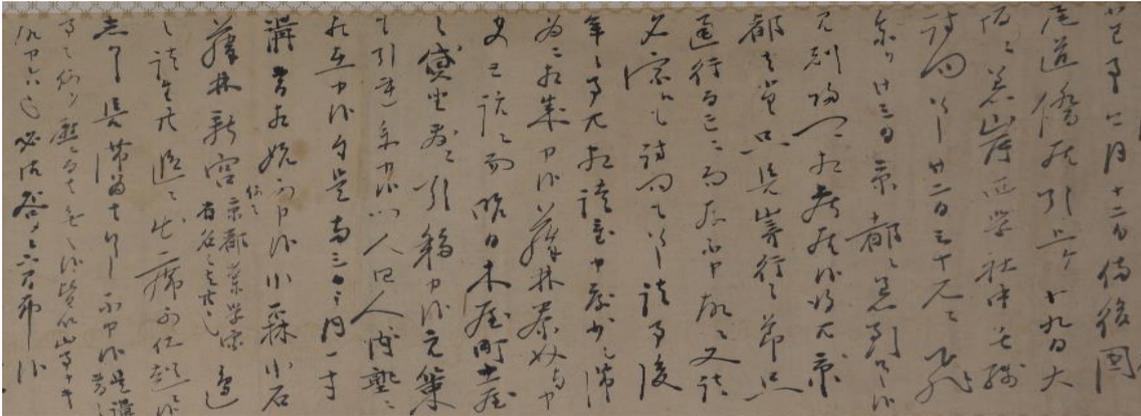


5月の資料紹介



高野長英書状(茂木左馬之助宛) 天保元(1830)年5月29日

これは長英が27歳の時、長崎から江戸へ帰る途中に京都より発信した手紙です。

「今月12日に尾道の仮住居を引き上げて、19日大阪に着岸し、23日京都に到着いたしました。」と、故郷へ伝えています。

また、「藤林泰介(訳鍵の著者)と申す者の世話で、昨日、木屋町土屋の貸座敷に引き移りました。これより2,3日の間、少しばかり講書を始めたいと思います。しかし、長期滞在は致しません。この講書は絶対慰めのものではなく、止むに止まれぬことがあったためです。決してお咎めにならないでください。」と書かれ、長崎から江戸に帰る途中、長英の帰郷への決心が定まらない迷いが窺われます。